

第19回工業教育全国研究大会  
第5分科会(個性化・特色化教育)

## 職業教育をとおした 「人間としての在り方生き方」教育

石川県立小松工業高等学校  
電子情報科 平木 勉

### 学校紹介

- 沿革 昭和14年開設
- 校訓 質実剛健・自重自治
- 教育理念 ものづくり・人づくり・身体づくり
- 設置学科
  - 機械システム科
  - 機械テクニカル科
  - 電気科
  - 電子情報科
  - 建築土木科
  - 建築科
  - 土木科
  - マテリアル科
- 生徒数 720

石川県  
安宅の園  
小松工業高校

### 本事業のあらまし

名称: 高等学校・中学校「人間としての在り方生き方を考える教育」実践研究事業(平成19年度)  
道徳教育実践研究事業(平成20年度)

趣旨: 青年期の特質を踏まえ、生徒が人間や社会に目を向け、人間としての在り方や生き方を考える教育を推進するための実践研究を行う。

本県における重点研究指定校:  
加賀地区  
小松市立御幸中学校+県立小松工業高等学校  
金沢地区  
金沢市立犀生中学校+県立金沢辰巳丘高等学校

### 本校の取組み

テーマ: 「職業教育をとおした人間としての在り方生き方教育」

研究課題: 「工業高校としての専門教育・職業教育をとおして人間としての在り方生き方を考える能力を育む指導方法及び地域の中学校との連携を考えた指導法の研究」(H19)  
「人間としての在り方生き方の自覚を深める道徳教育」(H20)

人間としての在り方生き方を考えるとは、自己をありのままに見つめ、自己に対する認識を深め、これを基盤として自らの目標を明確化し確立すること。

### 本校の取組み

具体的な取組:

- 育成したい資質や能力の明確化
  - 産業人としての自己の役割を自覚する態度
  - 将来の生き方や進路を考え、計画を立て、実行する能力
  - コミュニケーションを図りながら、豊かな人間関係を築く能力
- 前記資質・能力を把握する手立ての確立
  - 「人と関わる力の育成」との連携を踏まえた実践
  - アンケートの実施
  - 活動等の観察・面接・作文・レポートおよび外部意見・感想
- 指導方法等の開発と実践
  - インターンシップやデュアルシステムの実施
  - 外部講師事業
  - 小・中学校との連携(ものづくり)
  - 学校行事をとおした実践

### 「人間としての在り方生き方」とは

学習指導要領に「在り方生き方」という言葉が登場したのは平成元年改訂の学習指導要領から。現行(平成11年改訂)の学習指導要領 総則 第1款の2には次のように記されている。

学校における道徳教育は、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達段階にあることを考慮し人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、各教科に属する科目、特別活動及び総合的な学習の時間のそれぞれの特質に応じて適切な指導を行わなければならない。

「道徳」教育と「人間としての在り方生き方」教育は表裏一体

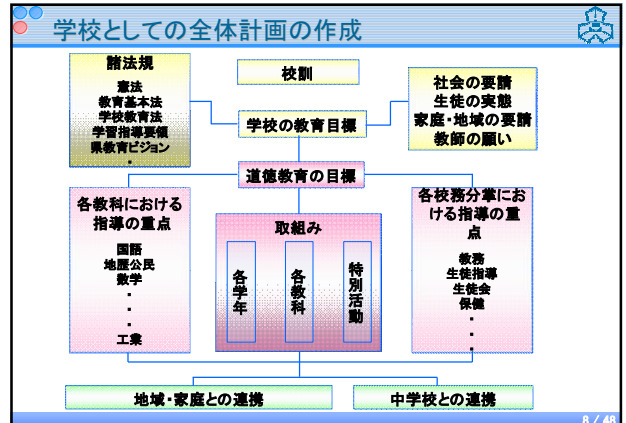
### ● 道徳教育の目標

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、個性豊かな文化の創造と民主的な社会及び国家の発展に努め、進んで平和的な国際社会に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

学習指導要領 総則 第1款の2

**道徳性**とは、人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為を可能にする人格の特性であり、人格の基盤をなすものである。それはまた、人間らしいよさであり、道徳的諸価値が一人一人の内面において統合されたもの。

7 / 48



### ● 第1年度取組みの概要

生徒の「人間としての在り方生き方」を考える能力を育むことを目的として、以下に示すような「行事」を企画・立案し実施した。

インターンシップ学習・発表会(1年、2年)、  
外部講師事業・いのちと心(1年、2年、3年)、  
外部講師事業・工業科(D科1年、D科2年、D科3年)、  
小学校との連携・ものづくり出張授業(S科2年)、  
ボランティア遠足(1年、2年、3年)、  
ボランティア清掃(部活動)、  
PTA・生徒の本音で語る会(各クラス代表) など

9 / 48

### ● 第2年度取組みの概要

第1年度の実践を踏まえ、かつ道徳教育への配慮を加え、以下に示すような「取組」を企画・立案し実施した。

デュアルシステム・発表会(3年)、  
学校開放講座補助員(D科2年)、  
中学校との連携・知的財産出前授業(D科2年)、  
「道徳性育成の視点」を盛り込んだ各教科・科目の公開授業  
全ホーム担任による「LHR(道徳の時間)」の公開授業  
研究発表会における公開研究授業(保健、LHR)  
道徳性に関する意識調査 など

10 / 48

### ● 小・中学校との連携

小・中学校との連携を活かし、道徳性を涵養し、自分自身及び他者との関係において主体的に行動ができる生徒の育成を目指す。

**小松市立御幸中学校との連携事業**  
校内インターンシップ発表会を御幸中学校の教員が見学  
高校における道徳的な観点を含んだ指導内容の理解および中学校への教材提供の可能性について検討。  
小学校等へのものづくり出張授業  
「環境に配慮したものづくり」に関する授業をとおした交流  
自分たちの活動が人に感動を与え、人のために役立つということを体験できたことは、生徒にとって大きな自信となった。

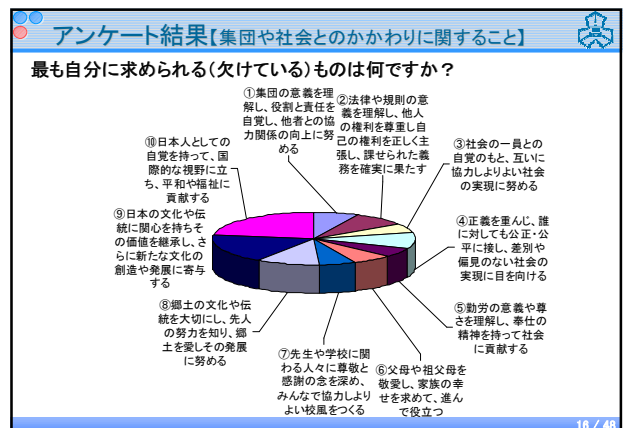
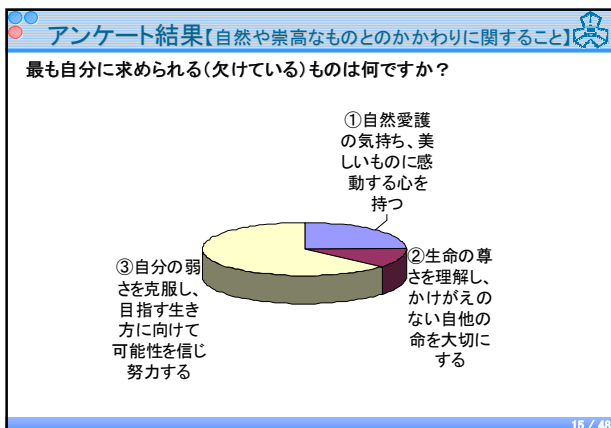
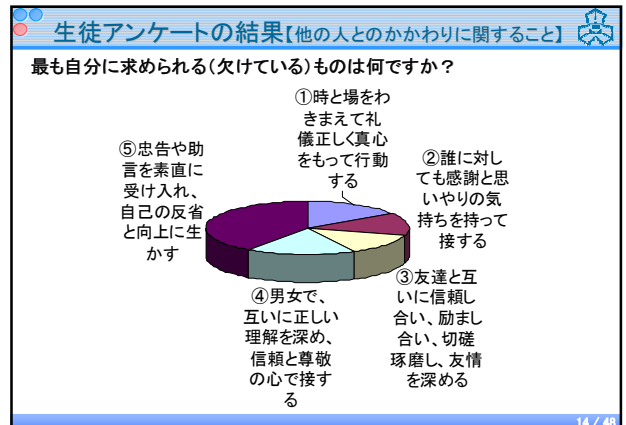
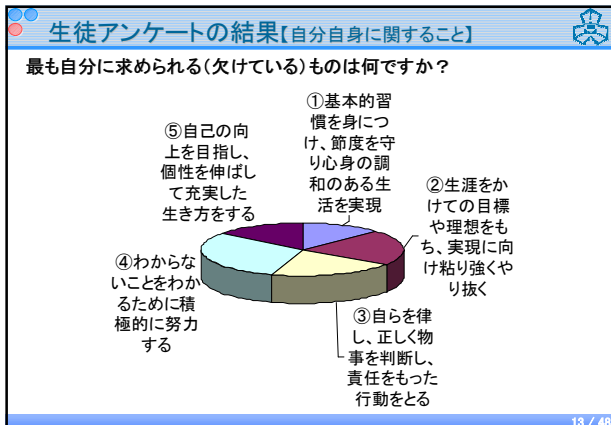
11 / 48

### ● 道徳教育の指導内容項目(中学校)

4領域23項目

- ◆「主として自分自身に関すること」
  - (1)生活習慣・心身の健康・節度・節制 (2)希望・勇気・強い意志
  - (3)自律・自主性・誠実・責任 (4)真理・真実・理想の実現
  - (5)向上心・個性伸長
- ◆「主として他の人との関わりに関すること」
  - (1)礼儀 (2)人間愛・思いやり (3)友情・信頼
  - (4)男女理解・異性観 (5)寛容・謙虚
- ◆「主として自然や崇高なものとの関わりに関すること」
  - (1)自然愛・畏敬の念 (2)生命尊重 (3)強さ・気高さ・生きる喜び
- ◆「主として集団や社会との関わりに関すること」
  - (1)社会的役割と責任 (2)法やきまり・権利と義務
  - (3)公德心・社会連帯 (4)正義・公正・公平 (5)勤労・奉仕
  - (6)家族愛 (7)愛校心 (8)郷土愛・先人への感謝
  - (9)愛国心・伝統と文化 (10)国際理解

12 / 48



### 具体的な取組(ボランティア遠足)

春の遠足時に途中経路や行き先に於いて清掃ボランティア活動を実施した。この催しに連動し「春の遠足」を題材とした俳句短歌大会を開催した。ゴミ問題や地球環境以外に、自然や崇高なものとかかわり等に関する道徳性の育成にも効果が認められた。

17 / 48

### 取組(ボランティア遠足)に対する評価

この催しに連動し「遠足」を題材とした俳句短歌大会を実施しており、生徒の力作や秀作が多く寄せられている。

- 春風に誘われ若葉が 顔を出す
- 桜の木 きれいに 見るため ゴミ拾い
- 春遠足 弁当うまし 母の味
- さみしいな 桜見思う 刹那時
- ゴミ拾う 僕達見ている つくしたち
- 木場潟の 水面に映る 燕かな
- あせ道に つくしの行列 わきあいあい
- ゴミの山 春の草木が 泣いている
- ひらひらと 桜の花が 道作る雨あがり
- 鬼ごっこ たんぽぽかばい 鬼になる
- 若葉敷き 笑顔を乗せて 輪を作る
- 遠足で みんなでわいわい 青春だ
- 砂浜は 貝殻1割 ゴミ5割
- 自転車で 走る僕らが 春の風

生徒の見たもの、感じたものが素直に表されており、自然と人間の交感や自然への畏敬の念が伝わってくる。

18 / 48

### 具体的な取組(PTA・生徒の本音で語る会)




現在の生活や将来の生き方、職業について考えを深め、産業人としての自覚や目的意識が持てるよう実施した。

3年生の発言が量的にも質的にも充実していた。職業選択のための意志決定が、自分の在り方生き方を考える契機となっていることが窺えた。

19 / 48

### 外部講師事業(「働くってどういうこと」)



生徒に工業に関する技術や広く産業・経済の発展について理解させ、自己の将来の生き方や進路を考える一助になるようにとの趣旨から、社会で活躍している方を工業科の授業に招へし講義をしていただいた。職業体験や就職試験への意識付けとして役立っている。

20 / 48

### 取組(外部講師事業)に対する評価

感想文から、「人間としての在り方生き方」を考えるという  
ことに対する効果を拾い出すと、以下のとおりである。

- 企業では答えが先にあり後で問題を解く
- 学校は個人の能力を測るところであり、100%の商品を作るところ。
- チームワークやコミュニケーションの大切さ
- わからないことがあったらすぐに聞く
- 仕事において効率をよくすることが会社ではできない仕事はない。
- 企業は100点満点のものをお客様に提供している
- 学校は平等に扱ってくれるが、企業では違う
- 仕事や働くことへの心構えができた。
- 仕事は基本的にはできるものがほとんど
- 企業の方は、しゃべり方がとてもいいである。

人生の先輩から知識を得ることによって「心の準備」ができ、それを参考に自身の「在り方生き方」を思い描き、将来に対する「見通し」を持てたことが安心感に繋がったものと推察できる。

21 / 48

### 具体的な取組(学校開放講座の補助員)



県民中学校学校開放講座の補助員として、電子情報科2年生6名が協力してくれた。生徒にとって、人と関わる力(コミュニケーション能力)の育成ならびに実践的な知識の習得や活用といった教育効果が期待できると共に地域貢献活動への取り組みの一環でもある。

22 / 48

### 具体的な取組(職業体験・長期現場実習)



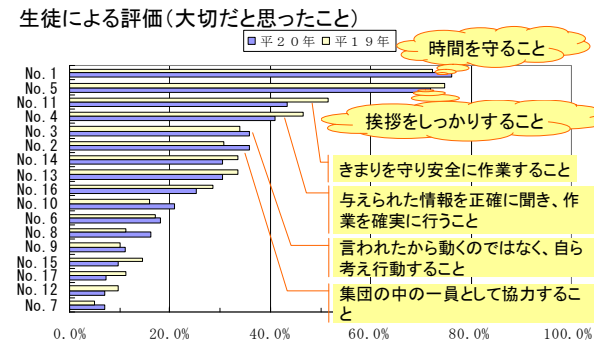
工業教育の一環として、学習の場を企業に依頼し、企業現場における活動を体験的に学習させている。

企業体験学習をとおり、実践的な知識や技術を身につけると同時に、職業人としての心構え・厳しさ・人間関係の大切さを学び、社会性を身に付けることができている。

23 / 48

### 取組(職業体験・長期現場実習)に対する評価

生徒による評価(大切に思ったこと)



項目	平20年(2008)	平19年(2007)
No. 1	~85%	~85%
No. 5	~85%	~85%
No. 11	~85%	~85%
No. 4	~85%	~85%
No. 3	~85%	~85%
No. 2	~85%	~85%
No. 14	~85%	~85%
No. 13	~85%	~85%
No. 16	~85%	~85%
No. 10	~85%	~85%
No. 6	~85%	~85%
No. 8	~85%	~85%
No. 9	~85%	~85%
No. 15	~85%	~85%
No. 17	~85%	~85%
No. 12	~85%	~85%
No. 7	~85%	~85%

時間を守ること

挨拶をしっかりとすること

きまりを守り安全に作業すること

与えられた情報を正確に聞き、作業を確実にすること

言われたから動くのではなく、自ら考え行動すること

集団の中の一員として協力すること

24 / 48

### 取組(職業体験・長期現場実習)に対する評価

企業による評価(学習態度)

	平成19年度					平成20年度					(%)
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	
積極性	15	46	35	3	0	19	37	32	10	2	A:非常に良い B:良い C:普通 D:やや悪い E:悪い
明朗さ	15	52	30	2	0	18	48	31	3	0	
礼儀正しさ	31	47	22	0	0	22	52	23	3	0	
協調性	19	50	29	2	0	13	51	30	6	0	
仕事の適性	17	48	32	3	0	18	50	29	3	0	

約7割の企業・事業所から好評価を得ている

### 具体的な取組(中学校への出前授業)



中学校へ出向き、知的財産権に関する授業「みんなでアイデアを生み出そう」を実施した。  
本事業を実施することにより、高校生にとって「教える」ことからの「学び」を、また両校生徒の「在り方生き方」に関する意識の高まり(人と関わる力の育成)を期待した。

### 取組(中学校への出前授業)の指導計画

知的財産(みんなでアイデアを生み出そう)  
ねらい:創意工夫に対する関心と意欲を喚起し、理論的な思考と創造性を育む。 於:小松市立御幸中学校

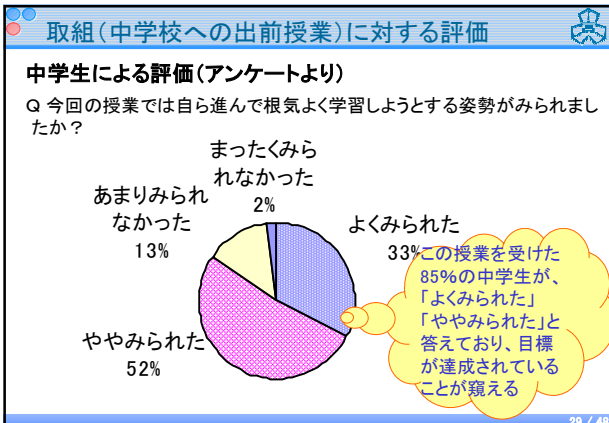
段階	主な学習活動	指導上の留意点
導入	①指導者の自己紹介を聞く	・全員が指導者の方を見て確認する。 ・各登場人物の心情をワークシートにまとめる。
	②本時の目標を知る	・実物「風船」を用いて、課題内容を具体的に把握させる。 ・課題内容をしっかり捉えようとしているか確認する。
展開	③演習1(風船を遠くへ飛ばすためのアイデアを考える)	・ブレインストーミングの4つの基本ルールを紹介し、守るよう注意する。 ・より多くのアイデアが出るよう支援する。
	④アイデアを書いたカードをもとに各自アイデアを発表する	・グループごと司会者を選出する。 ・ブレインストーミングの4つの基本ルールを守るよう注意する。 ・積極的に参加し、より多くのアイデアを出すよう支援する。
後段	⑤カードを模造紙の上に整理する	・表れづくりと図解化について補足する。 ・話題がずれていないか観察し、適時支援する。
	⑥実際に風船に工夫を加え、飛ばしてみる	・工夫が過度にならないよう注意する。 ・アイデアがうまく実現できているか自己評価を促す。
終末	⑦各班のアイデアを発表する	・各グループにアイデアを発表させる。 ・創意工夫に対する関心が高まったか確認する。
	⑧般化・振り返り	・創意工夫することの大切さを再確認する。

### 取組(中学校への出前授業)に対する評価

生徒自身による評価(感想文より)

- 有意義であったこと
  - 中学生にわかりやすく伝えることができた。
  - 普段は感じない先生の有り難みを感じた。(複数)
  - 先生に対する感謝の気持ちを持った。
  - 先生がいかに大変かわかった。(複数)
  - 先生の気持ちがわかった。
- 中学生に対して
  - 一人一人聞いてくれて、うれしかった。
  - うまく教えることができなかった。
  - もっと静かに聞いて欲しかった。
  - 一度騒がしくなるとなかなか静かにならないので大変だった。
  - 活発な班もあったが、もっと積極的に取り組んで欲しい。
  - もっと真剣に聞いて欲しかった。
  - 今日教えたことをぜひ活用してもらいたい。

自分とは逆の立場の人に対する思いを巡らすことができています



### 現行における在り方生き方教育の課題

高等学校の道徳教育は「人間としての在り方生き方に関する教育」を学校教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、各教科に属する科目、特別活動及び総合的な学習の時間のそれぞれの特質に応じて適切な指導を行わなければならない。 高等学校学習指導要領 総則

現状における問題点

学校教育全体を通して行う在り方生き方教育だけでは、内容的に希薄になる。  
高等学校では教育課程上「道徳の時間」がないため、道徳教育そのものについて教員側に認識がない。

### 在り方生き方教育年間指導計画

月	学年	主題	一学期的教育																			
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12								
4月	高1年	ボランティア活動																				
5月	高1年	アパレルの専攻																				
6月	高1年	特別講義(工業科)																				
6月	高1年	特別講義(工業科)																				
7月	高1年	特別講義(工業科)																				
7月	高1年	特別講義(工業科)																				
7月	高1年	特別講義(工業科)																				
7月	高1年	特別講義(工業科)																				
8月	高1年	特別講義(工業科)																				
8月	高1年	特別講義(工業科)																				
9月	高1年	特別講義(工業科)																				
10月	高1年	特別講義(工業科)																				
11月	高1年	特別講義(工業科)																				
12月	高1年	特別講義(工業科)																				
12月	高1年	特別講義(工業科)																				
12月	高1年	特別講義(工業科)																				
12月	高1年	特別講義(工業科)																				

### 第2年度の取組み

道徳的心情や、道徳的判断力・道徳的实践意欲と態度を養うには、高校においても「道徳の時間」のような道徳教育の要となる時間が必要であると考えます。

各教科・科目の指導および各種行事を通じて道徳性を高めることに加え、LHRを活用した道徳指導について実践を行う。

- \* 全教員による「道徳性育成の視点」を盛り込んだ各教科・科目の公開授業
- \* 全ホーム担任による「道徳の時間」の公開授業

### 具体的な取組(「道徳の時間」等公開研究授業)

「いしかわ教育ウィーク」における公開授業として、全てのクラスでロングホームルームの時間を活用して「道徳の時間」の公開授業を実施した。さらに、「道徳性育成の視点」を盛り込んだ各教科・科目の公開授業にも全教員で取り組んだ。

- ### 具体的な取組(「道徳の時間」等公開研究授業)
- 公開研究授業
    - 英語 OC1 「HOW-TO CORNER-3 道をたずねる・教える」(H19)
      - 2-(2)人間愛・思いやり
    - 保体 保健 「環境衛生活動の仕組みと働き」(H20)
      - 4-(3)公德心
    - LH 道徳 「人間尊重の精神」(H20)
      - 3-(2)生命尊重・4-(2)法やきまり
    - LH 道徳 「かけがいのない命」(H20)
      - 3-(3)崇高な生き方
  - LH(「道徳の時間」)の公開授業
    - 18クラスで実施
    - 「在り方生き方」教育の要としてLHの活用を考えた。
  - 「道徳性育成の視点」を盛り込んだ教科・科目の授業
    - 「道徳性育成の視点」とは、各教科・科目の目標と内容と道徳との関連を表すものである。

- ### 具体的な取組(「道徳性育成の視点」)
- 「道徳性育成の視点」の例
- 実習(Webの活用)** 2-(2)思いやり
    - パソコンを活用した実習では個人差があるので、お互いに教えあう姿勢や態度を育てる。
  - 情報技術基礎(プログラミングの基礎)** 1-(5) 向上心
    - 情報化の進展に主体的に対応する態度を育てる。
  - 製図(機械要素の製図)** 4-(1) 社会的役割と責任
    - 設計者は仕事に対し責任を持ち、他者との協力関係が必要であることを知る。
  - 電気基礎(交流回路の電力)** 1-(1) 節制
    - 無効電力を減少させる技術と関連させ資源を大切にすることを育てる。
  - 建築法規(良好な都市環境をつくるための規定)** 4-(2) 法やきまり
    - 法の成り立ちや必要性、法によって保たれる環境について感じる。
  - 染織デザイン(混色の種類)** 4-(1) 社会的役割と責任
    - 色票を切り貼りするとき、ゴミが出ないように心掛ける。

- ### 新学習指導要領
- 教育内容における主な改善事項
- 言語活動の充実 ○ 理数教育の充実 ○ 伝統や文化に関する教育の充実 ○ **道徳教育の充実** ○ 体験活動の充実 ○ 外国語教育の充実 ○ 職業に関する教科・科目の改善 ○ 重要事項(・体育、食育、安全教育を充実 ・環境、消費者に関する学習を充実 ・部活動の意義や留意点を規定等)
- 教科「工業」の目標
- 工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、**環境及びエネルギー**に配慮しつつ、工業技術の諸問題を主体的、合理的に、**かつ倫理観をもって**解決し、工業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。
- 「倫理観をもって」が加わった科目 **工業技術基礎、建築法規**

### 倫理観をもって・・・

- **工業技術基礎**  
 (1) 人と技術と環境  
 ア 人と技術  
 イ 技術者の使命と責任  
 ウ 環境と技術  
 安全な製品の製作や構造物の設計・施工、法令遵守など工業における技術者に求められる使命と責任について理解させること。
- **建築法規**  
 建築物が多くの法規によって規制されていること及び法令遵守について理解させ、倫理観を養うこと。
- **実習**  
 安全衛生や技術者としての倫理、環境及びエネルギーへの配慮などについて、総合的に理解させること。
- **化学工学**  
 災害の防止、安全管理の重要性及び法令遵守について理解させること。

37 / 48

### 技術者としての倫理とは

- 倫理というのは「行為・行動の科学である」  
 → できない行為や行動に関しては倫理的な問題は発生しない。
- 技術者倫理とは・・・  
 技術者として社会に対する責任を自覚する能力  
 例) ・技術者が、研学・経験・実務を通して獲得した数学的・科学的知識を駆使して人類の利益(=価値)のために、自然の力を経済的に活用する上で必要な行為の善悪・正不正やその他の関連する価値に対する判断を下すための規範体系の総体、ならびにその体系の継続的・批判的検討さらにはこの規範体系に基づいて判断を下すことのできる能力(ABET)  
 ・技術が社会及び自然に及ぼす影響や効果及び技術者の社会に対して負っている責任の理解(JABEE)など

38 / 48

### 技術者倫理教育とは

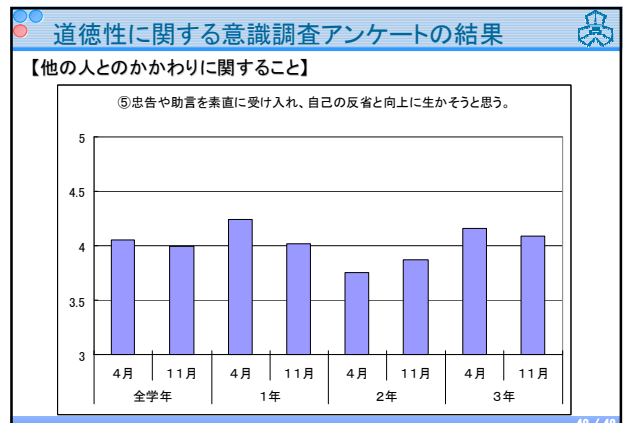
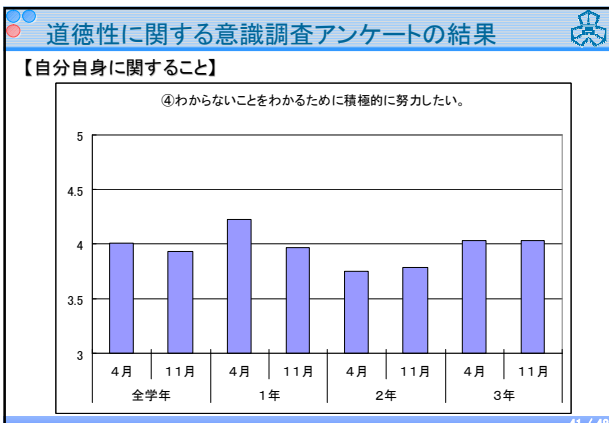
- 技術者倫理教育・・・  
 単に技術者はこれをしてはいけないといったような技術者が直面する課題解決法の教育ではない。
- 技術者倫理教育とは  
 技術者が、各人の世界観に照らして価値判断をできるように、価値とは何か、いかに振舞うべきであるかを考えるための思想(行動規範)形成と捉える。
- 技術者倫理として何を教えるか？
  - 専門領域固有の技術者倫理
  - 実践倫理学
  - 職業倫理
  - 企業倫理

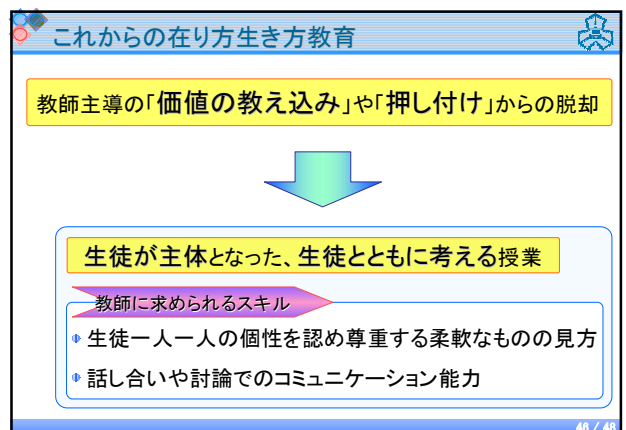
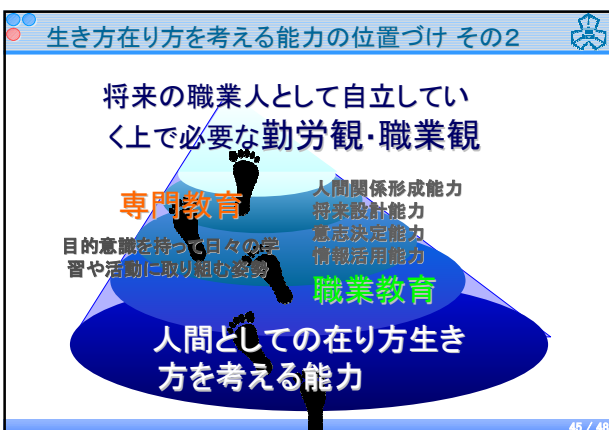
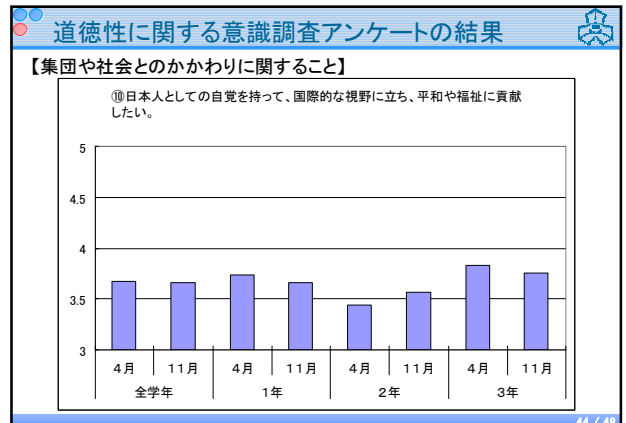
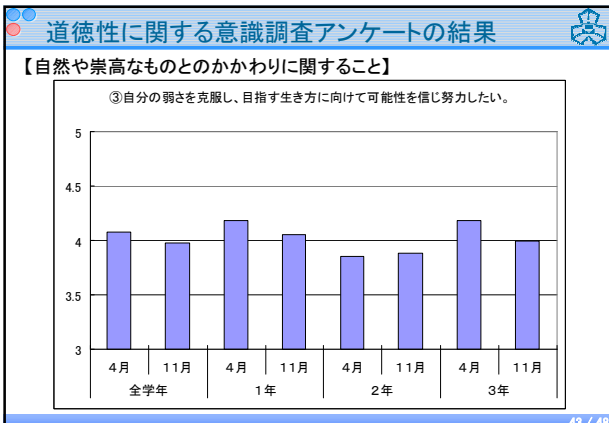
39 / 48

### 技術者倫理教育の手法と評価

- 技術者倫理をどのように教えるか  
 「カリキュラム全体を通じた技術者倫理教育」(Ethics Across the Curriculum: EAC)
  1. コアとなる科目において、社会に貢献する技術者として重視すべき価値の共有を図る。
  2. マイクロインサージョン手法を導入して、専門科目に倫理問題を取り込む。
- 技術者倫理教育をどのように評価する？
  - 倫理的感受性・・・技術者倫理に敏感か？ 課題発見能力
  - 倫理的知識・・・課題発見・解決のための知識は十分か？
  - 倫理的判断力・・・課題を分析し、倫理的な判断を下せるか？
  - 倫理的意志カ・・・「No」と言える強靱な意志カは？

40 / 48





- ### まとめ
- 高等学校には「道徳」の授業は存在しない。したがって、日常の教育活動全体を通じて「在り方生き方」教育を行っているかなくてはならない。
  - 高校段階で道徳心を養うためには、「人生観」更には「職業観」「勤労観」といった目標となる価値観の育成が必要である。したがって、進路指導・キャリア教育と関連させて、養っていくことが望まれる。
  - 日常の指導における教師間の意志を統一する為、共通認識を持つ機会を設定する。
  - 「意味づけ指導」を行うことにより、実施する活動の意義・意味を理解させる。そのことにより、生徒達がより主体的に取り組むようになる。
  - なるべく生徒が主体となる行事を利用して指導し、決して諦めず継続して行う。
- 47 / 48

ご静聴ありがとうございました

48 / 48